

平成30年7月豪雨の爪痕

平成30年6月28日からの台風7号や梅雨前線の影響により、岐阜県では中濃と飛騨北部で、平年の7月の降水量を2倍以上上回るなど、広い範囲で記録的な大雨となりました。

郡上市では、幸いにも人的被害はありませんでしたが、市内各地で土砂災害・浸水害が発生し、建物被害として、100件を超える床上・床下浸水が発生しました。また、多くの人が避難所へ避難する事態となりました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

今回の災害を教訓に、安心して暮らせる郡上市づくりに向けて、より一層の取り組みを進めてまいりますので、市民の皆様のご理解ご協力をお願いします。

豪雨の記録

大和町島地内



八幡町小那比地内



6月29日15時03分、本市に大雨警報が発表され、17時55分には土砂災害警戒情報が発表されました。これを受け、市は18時20分に和良町の7地区に対して避難勧告を発令しました。また、20時10分に吉田川の水位が避難判断水位を超えたため、八幡町の3地区に対して避難準備・高齢者等避難開始を発令しました。

その後、29日22時30分に土砂災害警戒情報が解除され、30日4時38分には大雨警報も解除されましたが、7月4日16時05分に再び大雨警報が、また、7月6日15時30分には土砂災害警戒情報が発表されました。

さらに、7日12時50分には、岐阜県に初めて大雨特別警報が発表される事態となり、市では災害対策本部を設置し、全庁体制で各方面の対応に当たりました。

4日から8日にかけて市が発令した避難に関する情報は、和良地域を除き、避難準備・高齢者等避難開始が22回、避難勧告が16回、避難指示（緊急）が8回にのぼり、市内では、89箇所の避難所が開設され、最大で2,064人が避難しました。

雨量については、降りはじめの7月3日21時から7月8日24時までの総雨量として、高鷲町ひるがのいで1,058ミリ、白鳥町長滝で1,009.5ミリを記録し、また24時間雨量では、高鷲町ひるがのいで472ミリを記録しました。この大雨により、特に高鷲町、白鳥町北部において、土砂の崩落、流出による被害が発生しました。

8日1時20分には、本市に記録的短時間大雨情報が発表され、美並町上田では、1時間に113ミリの記録的な雨量を観測しました。この猛烈な雨による河川の増水により、八幡町東部、美並町南部において、建物床上・床下浸水被害が発生し、和良町では、和良介護老人保健施設付近の和良川護岸が流出しました。

加えて、土砂災害により長良川鉄道が運休したほか、東海北陸自動車道や国道156号などの幹線道路の通行止めにより市内外の交通網が麻痺したため、市民生活に大きな影響を及ぼしました。

被害状況及び避難者等の記録

(8月22日時点)

(単位：件)

地域	床上		計	床下		計	合計		
	住家	非住家		住家	非住家		住家	非住家	計
八幡	8	5	13	28	5	33	36	10	46
大和	0	0	0	6	1	7	6	1	7
白鳥	0	0	0	13	11	24	13	11	24
高鷲	0	0	0	1	1	2	1	1	2
美並	1	3	4	16	7	23	17	10	27
和良	0	0	0	5	3	8	5	3	8
合計	9	8	17	69	28	97	78	36	114

避難対象者	避難情報		対象世帯	対象人数
	避難準備・高齢者等避難開始		473世帯	1,385人
	避難勧告		1,020世帯	3,409人
	避難指示(緊急)		8,652世帯	24,165人
計		10,145世帯	28,959人	

避難状況(最大)	避難者	2,064人
	避難所開設数	89箇所

和良町沢地内



高鷲町鮎立地内



美並町大原地内



白鳥町長滝地内

☑これからの時期の災害対策について

秋雨前線が停滞するこれからの時期は、南からの台風の北上に伴い、温かく湿った空気が刺激されることによって、台風が接近する前から大雨になることがあるため、台風の動向にも注意が必要となります。

豪雨による災害から命を守るために、的確な情報収集と早期の避難を心がけましょう。

▶台風の間

風速15~20m/秒では、歩行者の転倒や交通障害、建物の損壊、農作物への被害などが起こります。最大風速が40m/秒を超えると電柱が倒れるなど、より深刻な被害が発生します。また、台風の周辺では、竜巻などの激しい突風への注意も必要です。

▶台風の雨

大量の雨が、数時間から数日の短期間に広い範囲で降るため、河川の増水や堤防の決壊による洪水、がけ崩れや土石流などの土砂災害が起こる可能性があります。

▶局地的大雨と集中豪雨

局地的に短時間で大雨が降る集中豪雨や、予測が困難な局地的大雨（ゲリラ豪雨）は、いずれも雷を伴うことが多く、狭い範囲で総雨量が数百ミリに達することがあります。土砂災害、低い土地の浸水、河川の急激な増水に厳重な警戒が必要です。斜面、河川や用水路などには絶対に近寄らないでください。

▶大雨特別警報

台風や集中豪雨により、数十年に一度の降雨量となる大雨、もしくは数十年に一度の強さの台風や同程度の温帯低気圧により、大雨になると予想される場合に発表されます。重大な危険が差し迫った異常な状況ですので、ただちに市の避難情報に従うなど、適切な行動をとる必要があります。

☑避難に関する留意点

▶非常用品を備えましょう

避難先となる場所には、必要十分な備蓄や設備があるとは限りません。災害時にすぐに持ち出せる「非常持出品」と、避難生活で役立つ「非常備蓄品」を用意し、避難先での滞在に支障が出ないように備えましょう。

▶命を守る最低限の行動

避難するために屋外へ出ることがかえって危険な場合で、浸水による被害がないと判断されるときは、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に避難し、救助を待つことも検討してください。

地域の危険箇所や避難場所・避難経路を確認するとともに、市が発令する避難情報により、命を守るための行動を実行してください。「これくらいならまだ大丈夫」という油断が避難の遅れにつながり、気が付いたときには避難できない状況に陥ってしまうことがありますので、早めの避難を常に心がけましょう。

(参考) ぎふ防災ハンドブック2018年度版 問い合わせ先…総務部総務課 TEL 67-1832

平成30年7月豪雨への復旧支援に市内外からご寄附をいただきました。心よりお礼申し上げます。